

平成16年度事業計画書

平成16年度事業計画書

(平成16年9月1日から平成17年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

(1) 事業活動の今後の見通し

I 余剰食品の回収と、非営利団体への無償提供事業について

初年度に引き続き本年度も、フードバンク関西は食品関連業者から余剰食品を回収し、社会福祉施設や生活困窮者の自立を支援する非営利団体にこれら回収食糧を無償提供する事業を継続、発展させます。

具体的には、昨年度には積極的に取り組む事が難しかった余剰食品の提供者を新規に開拓し、その交渉過程で、私達が主張している資源の有効活用、使い捨て社会への再考、環境を保全するための具体的な実践として、フードバンク関西との協働を呼びかけます。また食品に限定せず、生活雑貨消耗品についても、同様な活動を試みたいと考えています。

食品の受け入れ団体については、現在回収してきた余剰食品を提供している団体への支援を続けると同時に、最も援助を必要としている団体を探し、どんな支援が必要なのかを模索し社会的に広がりをもつ活動へ発展していきます。

週6日のデリバリー活動に従事するボランティアの数を増やし、それぞれのボランティアが生活する町でのフードバンク活動の可能性についても、検討していく手掛りを探っていきたく考えます。

II 新しい事業への取り組みについて

昨年度、フードバンク関西が、余剰食品の提供者であるカルフルニ崎店と、食品受け入れ団体の障害者通所作業所との間をつないで、カルフル店の商業スペースを無償で借り受け、2ヶ月に一度の頻度で出店料無料の作業所生産品バザーを開催する事業を開始できた事は、フードバンク関西の社会貢献の一つの新しい形として、画期的であったと考えます。今までは、作業所の関係者が、その生産品を購入するという、言わば閉ざされた販路しか持たなかったのが、この大規模商業施設で一般の購買客に対し販売活動をする事で、生産品のレベルの向上と営業力のある生産品製作のための情報収集や研究に目覚しい取り組みが見られ、回を重ねる毎に、バザーで販売される生産品が販売力のある魅力的なものに変化しています。また、販売活動自体が、一般社会の人々と自然な形で接触する機会が少ない通所者にとって、得がたいリハビリの機会ともなっているとの事でした。

これからも、フードバンク関西の活動を通じて新たなネットワークを作り、参加者が互助的に貢献しあう企画を創造していきます。

III フードバンク関西が抱える問題点

フードバンク関西の一番深刻な問題点は、事業に必要な資金を如何に確保するかという事です。昨年度は、幸いにも大型設備購入と運営費の二つで、民間福祉財団から多額の助成金を受け取る事が出来ました。本年度は複数年での助成金受領は可能性が少ないので、地道に会員数を増やし、寄付を募る必要があります。

欧米と異なり、日本には福祉事業へ寄付をするという社会習慣が貧弱です。フードバンク関西も多くの会員、賛助会員の会費によって定例の運営費が賄える事が理想ですが、現状では困難な事と予想されます。しかし環境問題やエコロジーに無関心であるというのは企業イメージを悪くするという観点から、何らかの社会貢献の方法を探求している企業が増えています。それらの企業と環境問題を軸とした何らかの協働企画を提案し、支援を仰ぐ方法も新しい可能性として考えられると思います。

フードバンク関西が全く分野が異なる所で新たな事業を展開し、その収益を期待するという事も非現実的です。何か収益性のある事業を、今まで培った経験を土台に、地道に模索していく必要があります。

新たな展開を期待しつつ、前向きに模索しながら、この運営費問題に柔軟に対応していきます。